

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより

NO13-3

平成28年10月18日(火)
文責 小俣 一夫

全校朝礼 「読書で心の栄養を！」 担当は4年担任 下村 みどり 先生

下村先生から、皆さんは秋というどんな言葉を思いつきますか・・・という質問がありました。子どもたちから真っ先に出了のが「食欲の秋」でした。「読書 芸術 スポーツ・・・」子どもたちにとって秋は様々なことに取り組みの最適な季節なのだと思います。

本校では、月に一度の全校朝礼で各先生方が分担して、その月に合った内容で子どもたちに話をしています。10月3日(月)の全校朝礼は「4年担任の下村先生」が担当しました。その内容は次のようなものでした。

「皆さんは、つらいことがあった時には何をしますか？」先生は、子どもの頃、友だちから無視されるといういじめにあったことがありました。その時に「モモ(作:ミヒヤエル・エンデ)」という本に出会いました。

あらすじは

ある街に現れた「時間貯蓄銀行」と称する灰色の男たちによって人々から時間が盗まれてしまい、皆の心から余裕が消えてしまう。しかし貧しくとも友人の話に耳を傾け、その人自身をとりもどさせてくれる不思議な力を持つ少女モモが、冒険のなかで奪われた時間を取り戻すというストーリーです。

この本の中に「いっぽ ひといき」という言葉が出てきました。この言葉から、苦しいときには、一歩進んだら一息ついて、また、元気が出たらまた、一歩進もう、というように、今という時間を大切に、今できることだけを考えやっついこう。今何をすればいいのかだけを考えると頑張ろうと決めました。その後、いじめは時間の経過と共に無くなっていきましたが、そのつらい時間をこの本が救ってくれたのだと思っています。

皆さんも、この秋にすてきな本と出会って、「心を豊かに耕しましょう！」と締めくくってくれました。

交通安全標語が優秀賞に選ばれました！

都留市交通安全連合会が主催する交通安全標語募集に応募したたくさんの市内各小中学生の中から、本校の3名の児童が、小学校低学年の部と高学年の部で共に、「優秀賞」に選ばれました。

表彰式は11月16日(水) 15:50～ 市役所の大会議室で行われます。

優秀賞 付けようね 夜間の歩行 反射材 6年 天野 想空

優秀賞 こうさてん きゅうなとびだし いのちとり 4年 奥秋 星岡

優秀賞 ひょうしきを ちゃんとまもって 金メダル 2年 佐野 涼我

第25回 増田誠大賞 「米山」さん 市長賞受賞

10月2日(日)に行われた、第19回都留いきいきフェスティバル2016の開会式で、第25回増田誠大賞の入賞者表彰が行われました。夏休みの課題として取り組んだ2年生の「米山 暁吾朗」さんの作品「オラウータンのぼうけん」が小中学生の部「市長賞」の栄誉に輝きました。

この作品は、日頃から動物が好きな暁吾朗さんが、特に好きなオラウータンをじっくり観察して書きました。展示期間が終わると学校に戻ってきますので、作品の素晴らしい所をしっかりと見て自分が描くときの参考にしてください。



福祉講話を行いました。

10月4日(火)に「福祉講話」の時間をもちました。今年度は、講師に東桂にお住まいの「菊島 巧」さんをお願いしました。菊島さんは、視覚障害者ですが、夏狩にあんま、マッサージ、指圧の治療院を開業して地域社会に貢献しておられます。また、スポーツが大好きで、「グランドソフトボール」という種目で全国大会に出場したそうです。さらに、ソフトボール投げ、砲丸投げの2種目で山梨県代表として全国障害者スポーツ大会にも出場し、2011年の新潟大会では2種目共に優勝したそうです。現在は、砲丸投げでパラリンピックの予選会に出ることを目標に頑張っているそうです。

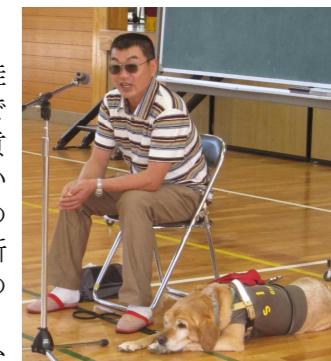
人は障害を持つと、ほとんどの人が家にもってしまい、外に出ることが少なくなるそうです。菊島さんもそんなつらい時期を過ごし、自殺まで考えたことがあるそうです。そんな時に、ある人の勧めで盲学校の見学に行きました。そこで出会ったのは、肢体、視覚、聴覚・・・に重度の障害を抱えていながら、毎日一生懸命に生きている子どもだったそうです。そんな子どもを目の当たりにしたときに、自分なんか軽いほうだ、こんなことで命を無駄にしてはいけない、きっと開ける道はあるようになる、と話してくれました。

菊島さんが日頃大切にしている3つのことは

- ①友だちに対する思いやり
- ②命の大切さ
- ③継続は力なり・・・だそうです。

また、最後に、「人の気持ちになって行動したり、目標を持って前向きに挑戦し続けることで、充実した毎日を送ることができています。」と話して下さいました。

学級の中に何かをなくして探している人、忘れ物をして困っている人、どうしても良いアイデアが思いつかず悩んでいる人、家で足の不自由なおばあちゃんが何かできなくて困っている・・・というような場面があるかもしれません。そんなときに、「私にできることはない?」「私が手伝ってあげるよ」・・・と人に声のかけられる人になってほしいと思います。そんなことを通して、自分らしく生きることの大切さ、素晴らしさを考えられたら素敵なことだと思います。



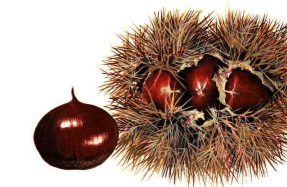
子どもの成長と子育て四訓

宝小学校としては、車道を友だちと話をしながら歩いて危険な目にあったり、夜、ライトも付けず自転車に乗って地域の人から指導を受けたり・・・など気になる児童の行動が見られた10月でした。

行動の一面には、親子のコミュニケーションや家族での団らんの時間など、普段できていることが何か足りなかったり、多すぎたり、バランスの均衡が保たれていないことにも起因しているのかも知れません。学校として、家庭として、一度、子どもの状況、教師や親の状況等々・・・各状況を見直してみる必要があるのではないのでしょうか。

〈子育て四訓〉

1. 乳児はしっかり肌を離すな!
2. 幼児は肌を離せ、手を離すな!
3. 少年は手を離せ、目を離すな!
4. 青年は目を離せ、心を離すな!



小学生の時期はとりわけ「少年は手を離せ、目を離すな!」の時期でしょう。小学生は、家族、友人、地域など他者とのかかわりの中で、少しずつ社会性が育つ時期です。ここでは、状況に応じて少しずつ手を離すなかで、子どもの行動範囲を広げてやる必要があります。

一方、この時期は成長とともに子どもが親に反抗したり、心が不安定になったりしがちな時期です。このことは、親や友人に「こちらを向いて欲しい」というメッセージを送っている時期でもあります。そして、それは一連の成長過程であり、親としてはしっかりと子どもと向き合い、共に成長することを心がける時期なのだと思います。これまでの子育ての振り返りのヒントとして考えてみて下さい。



遠足 滝に打たれて修行